

2026 年度 一橋大学 前期 歴史総合・世界史探究

第Ⅰ問

16 世紀、神聖ローマ皇帝も兼ねたカルロス 1 世統治下のスペインは新大陸に進出し銀を獲得したが、オスマン帝国はハンガリーまで進出し、プレヴェザの海戦でスペインに勝利して地中海制海権を握った。スペイン王位を継承しカトリックの盟主を自任したフェリペ 2 世はレパントの海戦でオスマン帝国を破って威信を高め、西地中海へのイスラーム浸透を防いだ。またポルトガルを併合して「太陽の沈まぬ国」を形成した。しかし対抗宗教改革の中心として、旧教強制などの圧政を行ったためオランダ独立戦争が勃発し長期化する中、独立を支援したイギリスにもアルマダの海戦で敗れ、威信が揺らいだ。新大陸産の銀が戦費に費され、ユダヤ人やムスリムを追放して国内商工業も衰えた。17 世紀には銀流入が減少し、ポルトガルとの同君連合が解消され、三十年戦争に敗れて国際金融の中心となっていたオランダも正式に独立し、続く対仏戦争にも敗れフランスからの圧迫が強まった。(400 字)

第Ⅱ問

スターリン死後、朝鮮戦争やインドシナ戦争の休戦協定が結ばれ、ソ連はオーストリアの独立回復に合意後、アジア・アフリカ会議に対応してジュネーヴ4巨頭会談を開催し、西独とも国交を樹立して西側との協調に向かう一方、独自路線のユーゴスラヴィアとも和解した。またソ連と東欧諸国ではスターリン体制への不満が高まり、見直しが必要となった。これらを背景にフルシチョフはスターリン批判の演説を行い、個人崇拜を批判して自由化の方向を打ち出した。外交では西側との平和共存を明確にしてコミンフォルムを解散し、日本との国交を回復した。ソ連の方針転換は東側陣営に動揺を与え、ポーランドとハンガリーでは反ソ暴動が起こった。前者はゴムウカが自主解決したが、後者はナジ政権がワルシャワ条約機構からの脱退を図ったため、ソ連軍が介入して鎮圧した。また中国はソ連の方針転換に反発して中ソ対立が始まり、アルバニアは中国を支持してソ連と断交した。(400 字)

第Ⅲ問

1 第一次世界大戦後、敗戦国のオスマン帝国領だった中東アラブ地域は英仏の委任統治領として再分割され、パレスチナではバルフォア宣言に基づきユダヤ人の入植が増加、アラブ人と対立した。第二次世界大戦後、国際連合でパレスチナ分割案が決議されて英が委任統治を放棄、ユダヤ人がイスラエルを建国した。アラブ諸国の反発で中東戦争が勃発し、またエジプトのスエズ運河国有化を機に資源ナショナリズムが高揚した。第3次中東戦争ではイスラエルがエジプトなどに圧勝して占領地を拡大、アラブ側は OAPC を結成した。失地回復を図るエジプトなどが第4次中東戦争を起こすと、OAPC が「石油戦略」を発動した。

(283 字／計 400 字)※OAPC は3文字でカウント

2 日本では原油価格高騰による物価上昇と不況で、高度経済成長が終わった。原油輸入元の中東依存度の低下を試み、発電では石油火力の代替として天然ガス・原子力の割合が増え、産業では省エネ化やハイテク産業への構造転換を進め、安定成長に入った。

(117 字／計 400 字)